第１８５回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成３１年３月２９日提出）

１．題　目： 高等学校でのアクティブラーニングの現状

２．日　時：平成 30 年 12 月 19 日（水）　～平成 31 年 3 月 22 日（金）

３．場　所： LACS 上にて実施

４．主　催： 教務委員会　企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
本 FD は，高校でのアクティブラーニングの実践事例とアクティブラーニングを取り入れた効果や今後の教育の方向性についての理解を深めることを目的とする。本 FD は 2018 年 9 月 26 日に実施した同タイトルの FD を e-learning によって学習するものである。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
題目：「高等学校でのアクティブラーニングの現状」
講師：畠山一馬 教諭（長崎県立西彼杵高等学校）
福田鉄雄 講師（長崎南山中学校・高等学校）

９．参加者：77 名
（内訳）

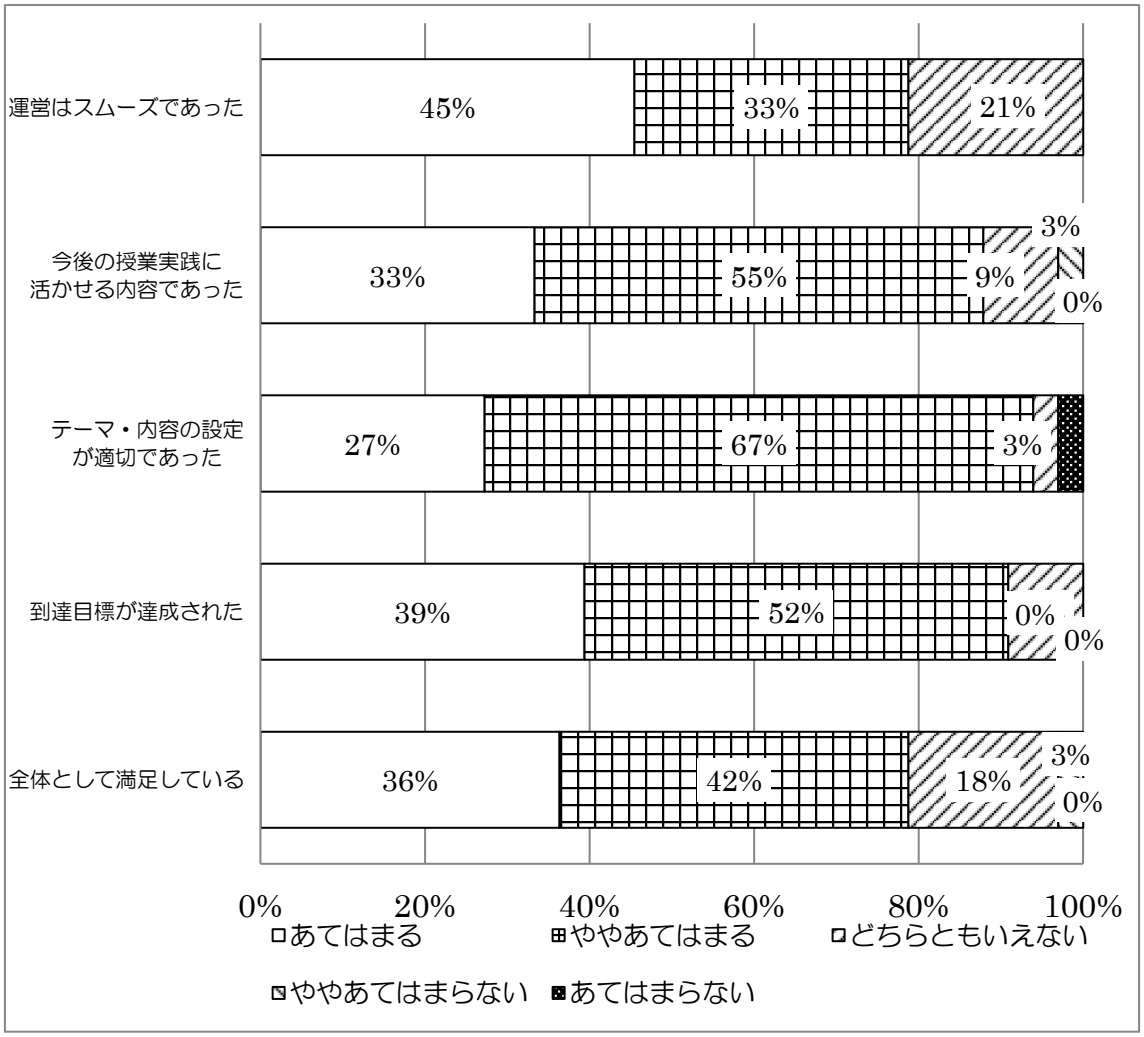
| 所　属 | 人数 |
|---|---|
| 教育学部 | 2 |

| | |
|---|---|
| 原爆後障害医療研究所 | 9 |
| 工学部研究科 | 2 |
| 医歯薬学総合研究科（医学系） | 35 |
| 医歯薬学総合研究科（歯学系） | 1 |
| 医歯薬学総合研究科（保健学系） | 4 |
| 先導生命科学研究支援センター | 1 |
| 熱帯医学研究所 | 2 |
| 病院 | 21 |
| 計 | 77 |

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）



Ⅱ．今回のプログラムについて、お気づきの点・ご意見・ご感想をご記入下さい。

・実際の講座も受講しましたが、改めて見直すといろいろな発見がありました。ありがとうございました。
・ムービーのリンクが異なっていたように思いました.（アクティブラーニングの動画だと思ってみたら，合理的配慮に関するものが流れました.）
・講演後の質疑応答について、どのような議論がなされたか知りたい。
・西彼杵高校では教員間で授業づくりについてどのような議論がされていて、授業（課題）がつくられているのかが気になった。
・このプログラムの後に、各教員で授業を持ち寄り、高校の先生方と授業づくりができるとさらに面白いと感じた。
・大学１年生も高校３年生もあまり変わらないと思うので、授業づくりの参考になると感じる。
・特に問題なく学習できました。
・授業内容も感銘を受けましたが、講師のお二人の役割分担も良く考えられており、飽きさせない見事な構成でした。今後の参考にさせていただきます。有難うございました。
・他の教育現場から外部講師はとても新鮮で参考になると思いました。
・教育 only の高校と、国試対策と実践対策が必要な医学系大学・大学院では教育目標と情報量が異なるのであまり参考にならなかった。
・自身の担当する授業形態へ生かしていきたいと考える。
・役に立つテーマだった
・参考になった
・高校での現状を把握することができた。
・前半の総論部分はもう少し減らしていいかと思います。各論は良かったです。
・地域の現状に合わせた対応が大切であることを改めて感じました。
・勤務上どうしても FD に出席できない事があり、e-learning を始めて頂けたと事は大変有り難い。
・今後の教育に非常に役立つと思う
・e-learning の受講を選択したら、すぐに動画が視聴できるように設定してもらえませんか。
・西海地区や西彼杵高校のことを知ることができたのは、たいへん良かったと思います。
・アクティブラーニングについての基本的考え方が良く分かりました。
・課題をアップロードして送信する際、ブラウザ Safari によるトラブルがあった。閲覧して課題提出する方法がわかりづらいように思います。
・よかったです。

・やや時間が長かったです。
・生徒数が少ない高校と授業参加学生数が多い大学とでは小グループでの学習などは生かすのが難しいと感じました。″
・課題をアップロードして送信する際、ブラウザ Safari によるトラブルがあった。
・時間がかかる。

**Ⅲ．長崎大学 FD としてとりあげるテーマ・内容についてご意見・ご要望をご記入下さい。**

・地域連携に関することはいかがでしょうか
・系統授業（知識伝達が主な授業）におけるアクティブラーニングに関する基本的な授業技術.
・少人数でのグループワークができたら…
・伝え方（説明）の方法
・これまでも数回あってますが、アサーティブコミュニケーションについて、学ぶ機会を今後も時々作って頂くことを希望します。
・短時間の FD
・倫理をテーマとした FD
・アクティブラーニング用の課題の具体的な作り方
・研究分野の実践的内容
・インストラクショナルデザインなど具体的に講義に活用できるような FD を開催して欲しいです。
・今回のような他業種の活動は参考になります。企業の開発研究などはどうでしょう。
・少子高齢化社会での教育
・高齢者にも活躍してもらえる教育現場″
・アカハラについて
・アクティブラーニングについて他のアプローチを学習したい
・県外から来ている教員にとっては、県内の高校の状況を知っておくことは、学生と話をする上で役に立つので、やってはどうでしょうか。各高校紹介の e-learning がたくさん選べるとよいですね。別に大学で作らなくともよいかもしれません。
・基本的な、具体的は進め方に関する事。
・研究活動における特許などの利益相反について
・内容はとても良い。
・外国語教育
・ほかの種類のアクティブラーニングについても詳しい専門家の話を聞いてみたいです。

・研究活動における特許などの利益相反について
・出席できる時間帯に開催されない。短時間でお願いしたい。

（２） 総　括

本FDは、9月26日に開催されたFDをe-learningで開催したものであり、タイトル通り高校でのアクティブラーニングの現状を把握し、現在の大学生がどのようなアクティブラーニング型授業を受講しているかを把握することで、本学での授業設計の参考にすることを目的として開催された。講演は、西彼杵高校教諭の畠山先生と前校長の福田先生による、西彼杵高校について、アクティブラーニングの組織的な取組みについて紹介された。西彼杵高校は「学びの共同体」による学校改革を推進していることで、県内のみならず、全国から注目を集める高等学校になっている。講演の中で、様々なタイプのアクティブラーニングの紹介があったが、中でも、「基礎的な知識を習得するために、あえて応用的な問題から取組む」という実践が紹介され、そうした授業設計の観点は高等教育におけるアクティブラーニングにおいてもおおいに参考になるものであった。受講者のアンケートからも非常に満足度が高く、高校のアクティブラーニングの現状について理解するという本FDの目標は十分達成されたと言える。また、9月26日に開催した際の参加者数は19名であるのに対し、今回のe-learningでは78名の受講があり、当日に参加できなかった方が多数受講されたと考えられるため、e-learning型のFDは有効であったと言える。

ただし、e-learning型FDにおいて、「動画の長さの問題」「アカウント作成の問題」「課題アップロードの問題」など、会場で実施されるFDには無い課題もあり、長崎大学FDとしてとりあげるテーマにあげられた意見とともに検討していきたいと考える。

（文責：成瀬尚志）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長 塚元 和弘
e-mail：ktsuka@nagasaki-u.ac.jp 電 話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
主査 寺川 美穂
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電 話：内線2077